

会員数(56.6 現在)

返子地区 145名

葉山地区 263名

大船地区 58名

合計 466名

吟道月報

認可 日本詩吟学院 岳風会

発行 碩心会 神奈川

56.6月

第107号

発行 者

根 岸 岳 萃
中 編 集 岳
杉 村 愛 岳
山 雪 風

吟道十年を省みて

堀内支部D組 高 梨木 哲 風

吟道月報二月号にがんばって!! とハラ見出しで、岩見声風さん、警山祐山さんと私の三人の名前が発表され、まだ若い心算でがんばっておりました。既に最年長と変わったのかと思うと聊か感無量です。懐い起せば私が吟道に入ったのは昭和四十七年三月、葉山の福祉会館で老人会の集りがあり、その時、中村愛岳先生とハッレよに桜花の詞を吟じたのです。若い頃薩摩琵琶を少し習った折、桜狩の中にこの詩があったので臆面もなく吟じたのでした。終わった時とてもよかったです。吟を始めたらといわれ、腹に力を入れて吟ずる事なので健康上にもよいと思ひ

直ちに入会いたしました。爾来十年近く、その間音感がよい、柳揚がよいなどとおだてられて今日迄続いた次第です。お蔭で健康に恵まれ公職の外、ハロハロの仕事をやっております。

この次は七段の査定をと云われては、さすがいつまで続くやらと思っております。皆様の御支援を切に願って、お見ません。

胃腸の管理はさしすせそ

- ① 酒、煙草、コーヒはほどほどに
- ② 刺激物はひかえめに。
- ③ 過ぎるは禁物、腹八分目。
- ④ せめて食後はひと休み。
- ⑤ そんなに怒るな、イライラするな。

◎ 第四回 横須賀第二地区大会終る

五月三十一日(日)鎌倉公民館で行われ、碩心会より約二百名が参加、独吟、合吟、立体吟にと練習の成果を發揮いたしました。連吟コンクール参加のニチームは惜敗いたしましたが来年にかけて又かばって下さい。

◎ 第八回 神奈川県青少年大会終る

六月七日(日)返子図書館ホールで行われ、碩心会より独吟五題連吟一題立体吟五題が参加いたしました。可愛い少年少女達が精いっぱい吟ずる姿に感激しました。又子供さんが多いのに若い方達の団結で進行もスムーズに進められ会場も意外な程静肅だった事に感心させられました。

◎ 第七回 碩心会温習会終る

六月十四日(日)深沢公民館にて行われ、梅雨にもめげず、遠距離にもめげず盛会の中

に終りました。皆さん期待の合吟コンクールは十六チームが参加、日頃の成果を發揮されました。各チームとも、出だしよく揃い、音程よし、声量ありでまさに接戦でした。入賞チームは左記の通りです。

一位……風早支部

二位……堀内支部A組

三位……桜山A支部

四位……真澄支部

五位……一色B支部

尚当日感じた事を一つ；最初から最後まで途中で帰る方が殆どなくてよかったなと思っただと、最後のコンクールの表彰式の際にバラバラと三分の一位の方が帰られたことが残念でした。あとわずかの時間帰らずにいてほしかったと思えます。

役員さん達には早朝よりかけつけ各部の分担を責任もって果され、御苦労様と心からお礼を申しあげます。

▲常任理事会ひらかる

六月十一日(木)七時より逗子会館に於てひらかれ、左記事項が審議されました。

- 一、県本部費の値上げ(月額四十円が百円に)に伴う碩心会本部費の値上げに関する件
- 二、創立四十五周年記念大会の準備委員の各部への割り当ての件

▲第三回 準備委員会ひらかる

- 六月十六日(火)七時より逗子会館に於てひらかれ、左記事項について説明承認されました。
- 一、総本部費改訂の件；(月額千二百円が七百円)
- 二、県本部費値上げの件；(四十円が百円に)
- 三、右二件につき会計より説明

- 三、碩心会本部費値上げの件(六十円を百円に)
- 四、右の件が承認決定されました。
- 四、準備委員の割り当て；(名簿別刷プリント)
- 五、各部分科会を持つ件
- 六、次回準備委員会；十一月下旬頃の予定

質問に答えて

左記事項につき質問がありましたので紙上回答いたします。

1、奥運番笺の折の書取りの様式について

吟題		作者名
起	句	录
転	句	結
受験番号	受験番号	受験番号

半紙二つ折の大きさ
受験番号は受付票に記入された番号のこと。

2、自然と人生の中の一節、歩しての読について……(あゆんで)と読むことに統一させていただきます。昨年末平塚で行われたと、八段の講習会でも(あゆんで)と指導されました。

訃報

逗子A組の竹村梅風さんが去る五月二十二日永眠されました。享年七十五文。竹村さんについてには月報(月号)で紹介いたしました。御霊前に皆伝免許(梅岳)が追贈されました事を報告いたします。御冥福を心からお祈りいたします。

碩心会の皆様に御礼 千葉香岳

二十年もの長い間、碩心会々買として在籍よき師、よき仲間、に囲まれ、好きなき吟道に精進、それなりに上達しながら、余生を楽しく送らせていただいております。竹村梅風が去る五月二十二日永眠いたしました。享年七十五でございました。

一 昨年の暮に心臓発作で一ヶ月余り入院いたしました。看護の甲斐あって回復し、その後は順調に健康をとり戻し、再び吟道に励んでおります。最近、声も元通り出るようになり喜んでおります。突然、脳溢血で倒れ、そのまま黄泉の国へ旅立ちました。

二十年の間、母は吟を愛し、また吟を通じて皆様方とも親しくさせて頂き、本当に倅と存生涯であったと思ひます。生前の皆々様の御交誼、御指導、そして暖かいお世話の程、母もあの世から手を合せている事と思ひます。

また告別式の際は、会員皆様の心からなるお

別れの吟詠をいたなき、その上過分にも総本部理事長松井岳洋先生の御叮重なる平詞を賜り、皆伝の免許までいたなき厚く御礼申しあげます。これも日頃の先生方始め皆様方の御支援があったればこそと感謝いたしております。最後に家族一同心から御礼申しあげ筆をおかせていただきます。(五六五・二七八)

(入) △△

(山根支部) 佐藤一夫 逗子市山ノ根 3-15-23

(電) 04681-7116553

(二色支部) 君和田敏 葉山町上山口 3-5-10

(電) 04681-7817881

(退) △△

竹村梅風(訃) 世田晴山(逗子△) 常盤久枝

(桜山B) 早川郁三郎(大船A) 酒井幸子(桜山B) 細直八

(真澄) 高橋公子(逗子B) 鈴木文子(逗子B) 秋元節子

(二色B) 行谷善美枝